

いきいき健康生活

鴻巣市広報「かがやき」 平成23年9月15日号 掲載

## 子どもの予防接種

予防接種は子どもを重い病気から守るのに有効な手段です。現在日本では、BCG、三種混合（ジフテリア・破傷風・百日咳）、麻疹・風疹混合（MR）、日本脳炎ワクチン、おたふくかぜワクチン、水疱（水ぼうそう）ワクチン、B型肝炎ワクチンなどが広く接種されています。

また、ここ数年で、新しい予防接種が開始されました。子どもの重い病気の一つである細菌性髄膜炎の原因菌は、肺炎球菌とインフルエンザ菌（B型）が有名です。これらに対する小児用肺炎球菌ワクチンとヒブワクチンの2つが、日本でもやっと開始されました。

3月に副反応が疑われる死亡例が続発し、いったんは中止となりましたが、厳密な検証の結果、4月には安全性が再確認され、再開されました。ワクチン接種を開始後、日本での小児細菌性髄膜炎の発症が減少したとの報告もあり、効果は確実と思われ、今後は接種が広がっていくことが期待されます。

子宮頸がんワクチンは、ヒトパピローマウイルスに対するワクチンで、感染予防をすることで、子宮頸がんの予防ができます。中学生から高校生の女子が主な対象です。

鴻巣市では、小児用肺炎球菌ワクチン、ヒブワクチン、子宮頸がんワクチンの公費助成制度が施行されています。対象年齢がそれぞれ決まっていますので、詳しくは鴻巣保健センターやかかりつけ医にご相談ください。

今後、ロタウイルス（乳幼児冬期白色便下痢症の原因ウイルス）に対するワクチンや、不活化ポリオワクチンの接種が開始される予定です。今までは、個人輸入をした医療機関でしか接種ができませんでしたが、今後は一般の医療機関でも接種が可能になると思われます。

その他、不活化ポリオワクチンと三種混合ワクチンを併せた四種混合ワクチン（正式名称は未定）も開発中です。今まで日本の予防接種の遅れは広く知られていましたが、今後、安全なワクチンが認可されて、いろいろな子どもの病気が予防されることが期待されます。